

Level4\_1: 私<sup>わたし</sup>と小鳥<sup>ことり</sup>と鈴<sup>すず</sup>と (金子<sup>かねこ</sup>みすず<sup>みすず</sup>)

私<sup>わたし</sup>が両手<sup>りょうて</sup>をひろげても

お空<sup>そら</sup>はちっとも飛<sup>と</sup>べないが

飛<sup>と</sup>べる小鳥<sup>ことり</sup>は私<sup>わたし</sup>のように

地面<sup>じめん</sup>を速<sup>はや</sup>く走<sup>はし</sup>れない

私<sup>わたし</sup>が体<sup>からだ</sup>をゆすっても

きれいな音<sup>おと</sup>はでないけど

あの鳴<sup>な</sup>る鈴<sup>すず</sup>は私<sup>わたし</sup>のように

たくさんな唄<sup>うた</sup>は知<sup>し</sup>らないよ

鈴<sup>すず</sup>と、小鳥<sup>ことり</sup>と、それから私<sup>わたし</sup>、

みんなちがって、みんないい

Level4-2: 彼は (千家元暦)

かれ  
彼はどこにでも居る。

せいめい ひ  
生命の火はどこにでも居る。

どこ  
何処にでもめぐり、何処にでも隠れて居る。

き  
気がつけば彼は露骨だ。

かれ みず なか  
彼は水の中にもいる。 さかな  
魚 となって水の中にもいる

び  
美しい金魚となって瓶の中にも居る。 わら  
笑いの中にも なみだ  
涙の中にも

かれ ひとびと  
彼は人々がいがる雨の中にも、 闇の中にもいる。

き なか  
木の中にもいる。 おんな  
女 や子供や犬や猫の中にもいる。

み  
見よ、どこにでも彼はいる

ろ こつ  
露骨なる彼は。

Level4-3: お菓子<sup>かし</sup> (水谷<sup>みずたに</sup>まさる)

わたしがもしも王子<sup>おうじ</sup>なら

家来<sup>けらい</sup>を呼<sup>よ</sup>んで云<sup>い</sup>いつけよう。

子供<sup>こども</sup>をみんなつれて来<sup>き</sup>て

おいしいお菓子<sup>かし</sup>を分<sup>わ</sup>けてやれ。

二<sup>ふた</sup>つのお手<sup>て</sup>にのらぬほど

たくさんたくさん分<sup>わ</sup>けてやれ。

けれど、わたしは王子<sup>おうじ</sup>じゃない

お菓子<sup>かし</sup>屋<sup>や</sup>の店<sup>みせ</sup>の前<sup>まえ</sup>に立<sup>た</sup>ち、

今日<sup>きょう</sup>もお菓子<sup>かし</sup>に見<sup>み</sup>とれては

そういうことを思<sup>おも</sup>うだけ。